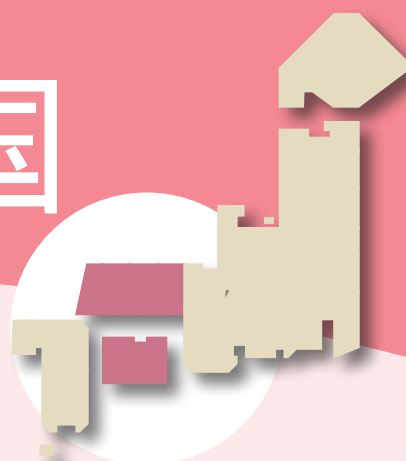


中国・四国



鳥取県	岡田清次さん		ソフトボール	46
	熊田熙代さん		弓道	47
島根県	田城真理子さん		ペタンク	48
	佐藤 豊さん		カローリング	49
岡山県	葭野浩道さん		カローリング	50
	永守修一さん		ペタンク	51
山口県	西嶋真彌さん		ソフトテニス	52
	河田邦代さん		ソフトバレーボール	53
徳島県	藤森 勲さん		カローリング	54
	新開 均さん		ソフトテニス	55
香川県	久保 隆さん		ソフトボール	56
	大西芳樹さん		将棋	57
高知県	小野山征男さん		俳句	58
岡山市	中村郁代さん		ソフトテニス	59
広島市	小村 堯さん		水泳	60



ソフトボール 「シニア伯耆クラブ」チーム

おかだせいじ

岡田清次さん

67歳

●参加歴：3回目

力強い声援を背に劇的な逆転サヨナラ勝ち

私たちのシニア伯耆クラブは、「とやま大会」ソフトボール競技の最高齢者表彰を受けられた河津選手（86歳）をはじめ、米子市を中心とした県西部地域のソフトボール愛好者の集まりで、〈健康で楽しく〉をモットーに1996年に結成されたチームです。ソフトボールの各種大会のなかでも、シニア世代が健康を維持し交流を深めていく、わんりんピックの出場を第一目標として、週1～2回秀峰大山の麓で、伸び伸びと楽しく練習を行っています。

今回の「とやま大会」には、県予選会の因伯シルバー大会が雨天中止となり、抽選の結果、幸運にも出場することができました。

試合結果は、競技1日目の交流試合は1回戦で敗退しましたが、翌日の交歓試合では、米子市出身で富山市在住のご家族や、鳥取県社会福祉協議会女子職員の皆さんの声援に後押しされて、選手一同奮起し劇的な逆転サヨナラ勝ち（5－4）となり、関係者も選手も大いに盛り上がりました。また、一昨年出場の「ながさき大会」でも、県社協の皆さんの応援に勇気付けられ、交流試合1回戦に逆転勝ちをしていましたので、これから県社協の皆さんに応援していただいた時には、試合に勝てるというジンクスができそうです。



守備位置につく
岡田さん。

総合開会式では、地元小学生との交流、式典、アトラクション等と大歓迎していただきました。そのなかでも特に、合同開始式のおわら風の盆（越中おわら）の唄と踊り、胡弓の響きは哀調があつてとても素晴らしかったです。また、宿泊先の近くにある富山県立鳥獣保護センターへ見学に行った際、センターの職員さんから「鳥取ですか!」と声を掛けていただき、「自分は学生時代に鳥取市に住んでいましたので、大変懐かしいです」と言われて、センター施設のことなどいろいろと説明を受けた、嬉しい出会いもありました。

4年後には、「とっとり大会」の開催が決まっていますので、シニア伯耆クラブの選手一同、健康に気をつけてこれからもソフトボールに係わり、選手あるいはボランティア等として地域から大会を盛り上げていきたいと思っています。

最後に「とやま大会」の大会関係者、ボランティア等の皆様、鳥取県社会福祉協議会の皆様、貴重な体験をさせていただきありがとうございました。



「健康で楽しく」がモットーのチーム。（前列右から3人目）



弓道 「鳥取県弓道」チーム

くまだ きよ

熊田 熙代さん

77歳

●参加歴：1回目

60年前に見た北アルプスとの再会

秋晴れの空の下、美しい北アルプス連峰を眺めながら「ねりんピック富山2018」の開会式が開催されました。今回が初めての参加ですが、60年前「富山国体」で見た北アルプスの美しさが目に焼き付いており、とても楽しみにしておりました。

この度は弓道で参加させていただいたのですが、弓道経験は浅く、ましてや競技会等は無縁のものと思い他人事のように聞いていました。70歳を過ぎてから何か老後のスポーツをと興味、興味ある弓道教室に通い始めました。弓具を見たことも触ったこともなかったのですが、何回か通っているうちに楽しくなり現在に至っております。チームメンバーに決まり、目標もできたので、週に2、3回は練習していましたが、一朝一夕で成果は出ず、気持ちだけが独り歩きしていました。熱心にご指導くださる先生方やチームメンバーに支えられ、出場させていただき本当に感謝しております。

開会式当日は真夏の様な日差しでしたが、次々と繰り広げられる集団演技に見惚れ拍手を送り、かつての「鳥取国体」で演技者の一人として「傘踊り」を踊ったことを思い出し、年月の流れを感じました。また場外では、演技を終えられた方々の温かい笑顔に見送られ、挨拶を交わしたこともとても良い思い出です。

射水市での前夜祭では、市長様はじめ来賓の方々の強い意志と実行力に感銘を受け、ささや

かな御礼の気持ちで初めての「ふるさと納税」をさせていただきました。学生時代の「富山国体」で富山駅に着いた私達を、真っ白の割烹着姿のご婦人方がお出迎えくださったことは今でも覚えています。

残念ながら、競技での鳥取県チームは予選落ちしましたが、この半年間、ご指導いただいた諸先生方やメンバーの方と、一つの目標に向かって練習してまいりましたので、悔いはなく楽しい思い出ばかりです。4年先は鳥取県で開催予定とお聞きしています。富山と鳥取は日本海側に位置し、類似点も多くあるように感じます。成功を願っていますが、私は80歳を超えてしまいます。果たしてお手伝いできるか今から心配していますが、次の目標に向かって一つでも多くの楽しい思い出を作りたいと思います。お世話していただいた県の皆様、ご指導いただいた諸先生、そして仲良くお付き合いくださったチームメンバーに、心より感謝しお礼申し上げます。



70過ぎて始めた弓道。支えてくれる仲間と。(右から3人目)



ペタンク 「マリン浜田」チーム(監督兼選手)

たしろ まりこ

田城 真理子 さん

63 歳

● 参加歴：1 回目

手術を乗り越え出合った生涯スポーツ「ペタンク」

県予選に勝った時は、信じられませんでした。激励会では身が引き締まる思いでした。浜田市から「マリン浜田」として、湯浅彦六・良子夫妻と私は、初めてのねんりんピック参加でした。彦六さんは高齢者としても受賞されました。ペタンクは90歳以上になってもできるスポーツです。

富山県は島根県からは遠かったです。3日の開会式は富山県総合運動公園陸上競技場で行われ、大会テーマは「夢つなぐ 長寿のかがやき 富山から」。全国から約1万人が集まり、入場行進では、これがねんりんピックの入場行進なんだと興奮し、多彩な演出で歓迎していただきました。秋晴れでとても気持ちよかったです。

ペタンク会場は南砺市でした。南砺市は世界遺産である五箇山合掌造りの集落をはじめ、純朴で薫り高い歴史文化が息づくまちで、小京都、豊かな自然にも恵まれ、600有余年の歴史を誇る門前町、木彫刻の音が響く信仰と木彫りの里「井波」、版画家・棟方志功が7年あまりを過ごした「福光」とありました。歴史のある街で、初めてのねんりんピックに参加し、生涯の思い出ができました。

ペタンクはどしゃぶりの雨でも試合をしますが、11月というのに暖かく、ワクワクしました。1位グループで決勝戦に上がりました。もし時間制限がなければ、3位、もしくは、優勝できたかもしれません。選手の皆さんとの交流もありました。

そもそもペタンクを始めたきっかけは両膝、特に右膝は2回におよぶ

手術でした。何か運動をしなければこのままでは膝が衰えてしまうと思ったのがきっかけでした。グラウンド・ゴルフは年齢が若すぎてできませんでした。ペタンクは、フランス発祥で、子どもから高齢者までできるスポーツですが、はじめにペタンクと聞いても、「えっ、何?」というくらい何も知りませんでした。しかし実際にしてみると、高度な技術や戦術を駆使し、頭を使うスポーツで、高い集中力と忍耐力が求められます。そしてマナーとルールも守ります。子どもから高齢者までできるのは、魅力の一つではないかと思います。私みたいに手術をしても走ることもなく、歩く距離も少なく負担も軽くて、生涯できるスポーツだと思っています。富山県、南砺市、大会関係の皆様、駅までのお見送りなどお世話になり心よりありがとうございました。



やったね、ベスト8！ 県知事にも報告しました。(中央)



カローリング 「カローリング島根」チーム

さとう ゆたか

佐藤 豊さん

85歳

● 参加歴：1回目

県選手団最高齢で出場。健康であることに感謝

ねんりんピックで初めて競技種目に採用されたカローリング。島根県代表3名の1人として、11月2日午前7時に出雲市駅を発ち、バスにて富山に向かう。夕方富山市のホテルに到着。10時間余りの旅であったが、皆が疲れもなく18時からの県選手団123名の結団式に参加。旅の疲れを癒してくれるお食事、親睦と交流の楽しいひととき。優勝を目指して「ガンバロー」と約束し各種競技会場近くのホテルに向かう。翌日、車窓から立山連峰のすばらしい雪景色を見ながら開会式会場の富山県総合運動公園陸上競技場へ到着である。

今回のとやま大会は、過去最多の27種目に1万人が集まり、各県の選手団もそろいのユニフォームにて清々しい。しかし、人の波、波である。地元の小学生、中学生と歓迎の会話をする約1時間も、瞬く間に過ぎる。高校1年生のプラカードの先導で団旗を先頭に47番目の入場行進はすばらしく、立派な陸上競技場にもただ驚くばかりである。炬火の演出も目を見張る見事なものであった。

開会式終了後のアトラクションは富山に育まれた生命が躍動感あふれる創作舞踊で表現され、全国から集った選手一同おもてなしと日頃の努力に感謝、感激した。カローリング会場の開会式では入善町の東狐獅子舞保存会有志のすばらしい演技に酔いしれた。

私がカローリングを始めたのは70歳を過ぎてからである。適度な

緊張感があること、特に体力は関係ないこと、室内競技のため子どもから高齢者まで気軽に競技ができることから現在も続け、仲間との交流を唯一の楽しみにしています。健康でねんりんピックに参加できたことに感謝、感謝です。多数の参加者がいるなか島根県選手団では私が最高齢者でした。カローリングの部で高齢者賞を壇上にて受賞し、身に余る光栄と感無量でした。参加の証にいただいた賞状と楯を一生の宝として心の支えに末永く飾り、健康を維持することを心がけ、毎日を大切に感謝の気持ちを忘れずに過ごしたく思っています。

後日、とやま大会の報告のため、4部門、7名のうちの1人に選ばれて県知事を表敬訪問する栄に浴し、県知事が入賞、受賞の喜びに熱心に耳を傾けてくださるなんて夢心地、雲上の幸せを感じたひと時でした。ありがとうございました。



平均年齢80歳の高齢チーム。勝敗より健康づくり。(中央)



カローリング 「瀬戸大橋」チーム(監督兼選手)

よしのひろみち

葭野浩道さん

73歳

●参加歴：1回目

新種目に採用され、愛好者の夢広がる

「NPO 法人スポーツライフ '91 天城」は1991年に設立されました。設立時より英語名をSPORTとして「S」を付けていません。これはスポーツ本来の語源に基づく活動を目的としたからです。(日本体育協会も今年4月より名称を日本スポーツ協会と変更し、英語表記よりSを取りました)。クラブ員は50名程度で約40種目のニュースポーツ用具を所有しています。

カローリングは12年前に3名が島根県大会に参加して指導員資格を取得しました。この3名が中心となり県内の普及に努めてきました。11年前には岡山県協会も設立して、日本協会より貸与された4ゲーム分の用具を有効に活用しクラブ育成に努めています。

ねんりんピック富山2018の選考会は5月に開催し、当クラブが上位を独占しました。1チームのみの参加ならばベストメンバーで臨めますが、3チームの出場となれば、クラブの「和」「理念」を重視する必要があります。そこで、過去の対外成績やクラブの将来も考慮しながら、ベテランと1年未満の新人をミックスしたチーム

を編成しました。

心配なのは岡山市枠で出場する1チームです。このチームは毎月2回わがクラブより用具を持参して指導に当たっているクラブの人たちです。しかし、心配は無用でした。岡山県勢の成績は14位から17位にきれいに並びました。しかも14位は岡山市のチームです。17位のチームは2勝0敗、他は1勝1敗でした。この奇跡的成績は岡山県協会の理事長として非常に満足できるものでした。

県チームは宿舎が分散したため、夜の食事は香川県・京都府のチームと一緒にしました。お互い交流大会に参加していますので、和気あいあいと酒を酌み交わしました。1チームは岡山市と同宿でこちらも楽しい食事会でした。

試合の翌日は県市の14名が高岡駅に集まり、私が希望していた瑞龍寺に参拝。昼食は駅近くの居酒屋で大いに盛り上がりました。その後は高岡の街を散策です。途中でダウンした5名は駅で落ち合うことになって、風情豊かな街並みを堪能しました。そのため電車に乗り遅れるハプ

ニングもありました。帰りの車内でもわいわいがやがやと一杯やりながら帰りました。

ねんりんピックにカローリングが採用され、全国の愛好者の夢が大きく広がりました。



交流大会会場で3チーム合同撮影。(後列右端)



瑞龍寺にて。国宝建造物巡りが趣味の葭野さん。(右端)



ペタンク

「岡山県瀬戸内クラブ」チーム（監督兼選手）

ながもりしゅういち

永守修一さん

69歳

●参加歴：1回目

悲願の初出場 ― 仲間とともに勝ち取った準優勝

念願が叶っての「ねんりんピック」出場。今回は私にとって特別な思いがあります。過去8年間、県の予選会では毎年のようにあと一步のところで、ことごとく出場を逃し続けてきたからです。

また、不幸なことに昨年の夏から関節リウマチを患い投球が思うようにできなくなり、このままでは一生出場できないのではないかと沈んだ気持ちのまま予選会に臨みました。ところが、そんな不安を払拭するようにチームメートの活躍で見事代表に決まり、喜びもひとしおでした。

富山県総合運動公園陸上競技場での開会式は絶好の天気にも恵まれ、スタンド後方には雄大な立山連峰がそびえ立ち、約1万人の選手団を歓迎しているかのようであらためて出場できた喜びがわいてきました。

開会式終了後、我々ペタンクの選手団は7台のバスに分乗し、試合会場のある南砺市へ向かい、開始式に出席しました。アトラクションでは地元の福野小学校スティールドラムクラブによる見事な演奏で歓迎を受けました。開始式終

了後、再びバスでそれぞれの宿泊場所へ分散し、我々は日暮れの中40分かけて「五箇山荘」に到着。温泉に入り疲れを癒しました。翌朝、試合会場へ向かう途中、世界遺産に登録されている合掌造りの集落の一つである菅沼地区を紅葉の山あいの中に見ることができ、感銘を受けました。

初日は、4チームごとのブロックに分かれ予選リーグを行いました。各ブロックの2位までが次の日の決勝トーナメントに進出できるため、何としても予選通過を果たしたいとの強い思いで試合に臨んだ結果、3勝できました。

勝負に拘ったのには理由があります。4月に行われた予選会で大活躍してくれたチームメートの女性がその後脳の手術を受け、今回出場できなくなりました。彼女の分までという全員の気持ちが好結果につながり、次の日の決勝トーナメントでも1戦1戦順調に勝ち進み、気がつけば決勝戦まで到達していました。山梨県チームとの対戦は力及ばず惜しくも破れ、準優勝となりましたが、満足のいく成績を残すことができました。

今回初めて出場し、夢と感動を与えてくれた「ねんりんピック」。これからもチャンスがあれば何度でも出場したいと思います。最後になり

ましたが、富山県の皆様には温かいおもてなしをいただき、深く感謝申し上げます。また、いろいろとお世話になった県社協の皆様にも心からお礼申し上げます。



勝ちに拘り、準優勝の快挙！（右端）



表彰式。（左端）



ソフトテニス 「維新 151」 チーム (監督兼選手)

にしじましん や

西嶋 眞彌 さん

71 歳

● 参加歴：2 回目

パートナーと共に、今プレーできる喜び

晩秋の 11 月 3 日、平成で最後となるねんりんピックの総合開会式が富山県総合運動公園陸上競技場にて開かれ、私は山口県選手団の旗手として参加し、誇らしい 1 日を体験しました。天気は快晴。遠くには新雪を冠した立山連峰が映え、全国から参集したおよそ 1 万数千人の選手を温かく迎えてくれました。

翌 4 日と 5 日は、高岡スポーツコアでのソフトテニス交流大会に監督兼選手として出場しました。ソフトテニスは学生時代に夢中になったスポーツでもあり、還暦を過ぎ時間的にも余裕もできた 2008 年に、懐かしさや健康維持の目的もあって、再びラケットを握りました。それからの 10 年間は週 2 回数時間の練習に加え、県内外の大会にも時折参加しています。ねんりんピックへは 2012 年のせんだい大会に初出場、2015 年やまぐち大会では競技役員として参加し、今回のとやま大会が 3 回目でした。

ソフトテニス交流大会の特色は、チーム編成が 70 歳以上の男性と 60 歳以上の女性の混合ペア、60 歳以上の男性ペアと 60 歳以上の女性ペアの 3 ペアによる団体戦であることです。山口県チームは初日の予選リーグでは岩手県、東京都 A と大阪府の 3 チームと対戦し、いずれも僅差でしたが、1 勝 2 敗のリーグ 3 位で終わりました。翌日の 3 位グループの決勝トーナメントでは、2 回戦で堺市、3 回戦で富山県 B を破り、準決勝では高知県に 2-0 で勝利し、決勝戦では本州最北県の青森県と対戦しました。第 1 試合は混合ペアが快勝し順調な滑り出しでしたが、2 番手と 3 番手は奮闘するも破れ、2 位で大会を終えました。しかし、監督としては、各ペアが互いに連携しながら持てる力を存分に発揮し、楽しくまた怪我もなく、予選から決勝まで全 7 試合を懸命に戦ったことは、とても嬉しく思っています。中でも、大野・石田の混合ペアの快進撃は見事でした。

個人的な感想ですが、本大会には 70 歳後半から 90 歳を超えた参加者が多数見られ、その素晴らしいプレーがとても印象的でした。この先達らがソフトテニスのレベルを一段と底上げされていると強く感じ、後に続く我々も一層の努力が必要であることをあらためて認識させられました。

最後に、富山県の選手やボランティアなどの関係者の皆様、大変お世話になりました。また、全国のソフトテニスプレーヤーの皆様、どこかでお会いしましょう。



山口県代表メンバー。(前列右端)



堂々と旗手を務めた西嶋さん。



ソフトバレーボール 「向陽クラブ」

かわ た く に よ

河田 邦代 さん

69 歳

● 参加歴：3 回目

夫婦でつないだ、ワン・ツー・アタック！

夫婦でソフトバレーボールを始めて20年。多くの大会や招待試合を経験してきましたが、還暦を迎えたら必ず、ねんりんピックに出場しようと熱い思いを持っていました。その甲斐あって、これまでに2度出場。山口県では参加資格が1年おきのため、年齢を重ねていくほど県内予選も厳しくなる中、「夢つなぐ 長寿のかがやき 富山から」の大会テーマのように私達の夢はつながり、このとやま大会に出場できることとなりました。そして、参加するからには、金メダルをとるという大きな目標を持って挑みました。

総合開会式はいつ来ても胸高鳴るものを感じます。幸いお天気にも恵まれ、遠くうっすら雪をかぶった立山連峰もはっきりと見え、3000メートル級の山々の懷に包まれて、山も私達を歓迎しているように思われました。

私達ソフトバレーボールの会場は黒部市で、全国から67チーム参加、ねんりんピックに初めて参加した年から数えて6年も経過すると、さすがに知らないチームもたくさんあり、多少不安もありましたが、予選リーグでは絶対1位になろうとチームが一丸になっていました。

初戦危ない場面もありましたが、私達チームの特徴である粘り強さとあきらめない気持ちを発揮し、1位になることができました。翌日は決勝リーグ戦、3チームが1勝1敗と同率になりセット率で金メダルを逃してしまいました。あと一步というところだっただけに日がたつにつれ悔しさが募り、悔やまれてなりません。2日間の熱戦を終え、閉会式終了後、私達は富山の夜をしっかりと楽しむことにしました。

私達の暮らす長門市は、日本海に面し、海の幸、山の幸、そして、温泉もありと豊かな自然に恵まれたところで、富山には引けをとらない美味しいものもたくさんありますが、富山湾を見下ろす雄大な立山連峰も、深海に住む白エビもいません。夕食に食べた白エビのにぎりの美味しかったことと言ったら……。もう一度富山を訪れ、白エビのフルコースを思いっきりいただくという大きな目標ができました。

ねんりんピックを通じて、年齢を重ねても競技の楽しさを知り、自分に限界を作らずいつまでも挑戦し続ける気持ちを持つことなど、心の若さを持ち続けたいと思うしだいです。終わりに、この大会に関わった全ての関係者の皆様に心から感謝を申し上げたいと思います。皆様ありがとうございました、そしてお疲れ様でした。



粘り強さが強みの「向陽クラブ」。(前列右側)



カローリング 「阿波吉野川」チーム(監督兼選手)

ふじもり いさお

藤森 勲さん

73歳

● 参加歴：1 回目

良い仲間と相手に恵まれ優勝！ メディアにも掲載

今大会は、カローリングが初めて参加種目になった記念すべき大会になります。4月に県内の予選会があり、その後、追加募集があったので参加の希望を申し出たところ運よく出場できることとなり、大感激！

11月2日の朝、徳島県庁で行われた県選手団の結団式で多くの方々から激励の言葉をいただき、そろいのユニフォーム姿で4台のバスに乗り込み、開催地の富山県へと出発、夕方5時過ぎには富山市内のホテルに着きました。場所を移し、夕食を兼ねた県選手団交流会があり、団長からの挨拶の後、参加チームの代表が明日以降の試合への意気込み等を語り、楽しいひとときを過ごしました。

3日は10時から富山県総合運動公園陸上競技場で総合開会式があり、待ち時間の合間に、ふれあい広場で富山のうまいもんコーナーやいいもんコーナーなどを楽しみました。開会式では1万人を超す参加者の入場行進と大会長（富山県知事）挨拶の後、立川志の輔さんや柴田理恵さん達も出演した楽しいアトラクションなどがあり、昼食弁当を食べながら観覧し盛況のうちに終わりました。

その後、試合会場の入善町総合体育館へバスで移動し、監督会議の後、カローリング開始式がありました。大会長挨拶の後、高齢者表彰などもあり、和やかなムードのうちに式が終わりました。その後、海沿いの

民宿で宿泊し、新鮮な美味しい海鮮料理でお酒も進み楽しい夕食となりました。

そしていよいよ試合当日になり、送迎バスで試合会場へ。第1試合は10時に始まり、私たちの試合は11時からです。試合時刻が近づくにつれ少しずつ緊張感が増してきましたが、第1試合が始まる頃には大分落ち着き、2試合とも運よく良い相手、良いコート、良いローラーに恵まれ、大量得点で運よく優勝することができて本当に良かったです。

帰りは黒部宇奈月温泉駅から北陸新幹線に乗り、金沢、大阪で乗り継ぎ、帰宅は夜中の2時頃になっていましたが、車中大会を振り返りながらルンルン気分で眠気ありませんでした。

大会が終了し、徳島県選手団の競技結果が地元紙の地域スポーツ面に掲載され、皆さんから祝福のことばをかけていただき、いまだに喜びに浸っております。

最後になりましたが、参加の機会を与えてくださったとくしま“あい”ランド推進協議会や関係者の方々に深く感謝しております。



共に戦った仲間と。(右端)



ポイントゾーンを狙う藤森さん。



ソフトテニス 「徳島チャレンジⅢ」チーム

しんがい ひとし

新開 均さん

66歳

● 参加歴：4回目

年齢を重ね、楽しくのぞんだとやま大会

ソフトテニスの「徳島チャレンジⅢ」は、ほぼ同じメンバーで3度目のねんりんピック出場です。1度目のとちぎ大会では優勝を狙って、全国上位選手をそろえて参加しましたが、予選リーグ1位で通過したものの、翌日は台風で中止。翌年のやまぐち大会では、決勝トーナメント2回戦敗退と、残念な結果で終わりました。そんなこともあり、とやま大会では年齢を重ねてきたこともあるので、楽しんで試合をしようと話し合っ、大会にのぞみました。

総合開会式では、私が選手団の旗手に選ばれ、先頭を歩かせていただきました。私自身は4回目の出場で初めての大役でしたが、楽しく行進できて、印象深い大会になりました。

大会2日目はいよいよ競技が始まりました。ソフトテニスは3ペアの団体戦で、1番手が70歳以上男子・60歳以上女子のミックス、2番手が60歳以上男子、3番手が60歳以上女子のペアです。初戦の対北海道戦では1番手が負けましたが、2、3番手が勝ち、2対1で勝利、堺市、

神奈川県には快勝して第1位グループ決勝トーナメントに進出しました。

3日目は最終日でいよいよ結果が出ます。1回戦の東京都Aに2対1、準々決勝の奈良県に2対0で勝利し、準決勝では佐賀県との対戦。1番手の渡辺・宮田ペアは接戦となりましたが、75歳の宮田選手のボレーが決まり、4対3で先勝、2番手の新開・佐藤ペアは4対0で快勝し、決勝進出となりました。

決勝の相手は兵庫県で、全国大会の上位でよく対戦する、馴染みの選手との試合になりました。1番手の渡辺・宮田は4対1で強豪に快勝、新開・佐藤は2対4で敗退し、3番手の小原・犬伏ペアは大接戦でナイターでの試合となり、3対3のファイナルゲームで惜しくも敗退、残念ながら準優勝に終わりました。

優勝を狙って出場したら勝てず、楽しんで参加したら準優勝と、あらためてソフトテニスは難しい競技と感じました。次回は、10年後、最高齢チームで参加しようかと話しています。

最後になりましたが、大会を運営していただいた富山県関係者、総合開会式で徳島県を担当してくれた「富山きときと夢 KIDS」の皆さん、後方支援いただいた徳島県担当者の方々にお世話になり、お礼申し上げます。



試合後に晴れやかな表情を見せる選手たち。(右から2人目)



入場行進で旗手を務めた新開さん。



ソフトボール 「瀬戸製作所友クラブシニア」チーム（監督）

く ぼ たかし
久保 隆さん

72歳

● 参加歴：4回目

気心知れた仲間たちで25年、ねんりん初優勝！

私達のチームは、壮年（40代）時代からのチームを母体に、結成からかれこれ25年が経ちました。多少の入れ替わりがあったものの、そのほとんどがソフトボール好きの集まりで、全国大会優勝を目指して日々練習してきた仲間たちです。練習は週2回、壮年・実年（50代）チームが合同で行っています。練習では、若手の走塁や肩の強さ、打球の速さに戸惑いながらも、一緒にソフトボールができることが楽しみなのです。グローブにボールが当たっているのに捕れない、少し後ろに飛んだフライのボールが捕れないなど、戸惑いながらも白球を追いつけています。

本大会では最終日が雨天中止となり、4チーム優勝となりました。こればかりはどうしようもないですが、勝っても負けても強いチームと試合をしたかったです。

どの大会もそうですが、まずは初戦をどう勝ち抜くかが今後の試合に影響します。特に本大会1回戦が対静岡県ということで、チーム全体に気合が入りました。試合時間が1時間または

5回ということで、先取点を取られれば焦り、リズムが取れなくなり、負ける確率が高くなります。逆に言えば、先取点を取れば非常に有利な戦いとなるので、まずは相手より先に点を取ることに集中しました。今回は1回戦から4回戦まで、戦略通り先取点を取ることができ、いい流れで試合に臨めたと思います。この歳になっても、いい緊張感がある中で試合ができるというのは、ワクワクドキドキするものです。前月の全日本シニア大会ではベスト8にとどまりましたので、今回の優勝という結果は一步前進し、重要なモチベーションとなりますが、健康で練習や試合ができるというのが、最高の至福といえるのではないのでしょうか……。

大会関係者の皆さん、ソフトボール会場での炊き出しや飲み物の提供など心温まるおもてなしをしてくださった皆さん、旅館の皆さん、かがわ健康福祉機構の皆さん、大変ご苦労さまでした。そしてありがとうございました。立山連峰をバックに、ねんりんピックに参加できたことは、思い出深く刻まれました。



優勝の賞状を手にピースサイン。（前列左から4人目）



試合前の緊張の一瞬。（奥列右から2人目）



将棋 「香川」チーム（副将）

おおにしよし き

大西芳樹さん

64歳

●参加歴：2回目

渾身のベスト16入り！将棋も交流も思い出に

将棋交流大会は小矢部市のクロスランドおやべメインホールにて、4日は団体戦予選リーグが行われ、5日は団体戦決勝トーナメントと団体リーグ敗退チーム選手による個人戦トーナメントが行われました。

チーム香川は、観音寺支部に所属する、大將玉地良行、副將大西芳樹、三將中山精壽がメンバーでそれぞれが実力を十分に発揮しました。初戦であたった札幌ファイターズが強豪ぞろいで最難関と思われましたが、大將が早くに勝利を収めて勢いがつき、3対0で押し切りました。望外の勝利でした。続く滋賀県チームに2対1、岡山県の桃太郎に3対0と連勝し、C組第1位で決勝トーナメント進出を果たし、ベスト16を確定しました。

その時の嬉しさと言ったらありません。なにしろ全国の強豪・古豪のひしめく64チーム中の16位以上となったのですから。疲れていたはずなのに、3人とも翌日の決勝トーナメントに向けて力が湧き上がっていました。一緒に詰将棋を解いたり次の一手を考えたり定跡の復習をしたりして、団体戦ならではの宿での過ごし方も楽しいものでした。

しかし、翌日の決勝トーナメント1回戦では秋田県チームに1対2で敗れ、念願のベスト8入りは実現できませんでした。内容的にも僅差だっただけに残念ではありましたが、健闘したと思います。また、試合結果も大切ですがそれが全てではないと実感しています。ねんりん

ピックに参加することで楽しいできごとや発見があり、多くの人と交流ができたのでした。

地元の将棋の支部の方々の尽力や生徒の皆さんの応援、地域の人たちの心遣いや親切はとても温かくありがたいものでした。全国の選手の方々との交流でのお国自慢なども楽しいものでした。例えば「香川の人は毎日うどんを食べるんですか」とか「金刀比羅に行ったことがあるんですよ」などと言われたりしました。秋田県チームの人たちには試合前にずいぶんとお米と美人の自慢をされ、楽しく聴き過ぎたのが敗因の一つかもしれません（冗談）。

何より心に残っているのは60歳台の自分たちが若造に思えてしまうような多くの人生の先輩方が大変お元気で活躍されていること、自分たちも健康に留意し、好きな将棋を楽しくかつ真剣に指し続けていきたいです。最後になりましたが、参加するにあたってお世話になりました関係者の方々に心よりお礼申し上げます。



強豪との初戦を終えて、ほっと一息。（右端）



俳句

おのやまさん

小野山征男さん

76歳

●参加歴：1回目

弟が残りて奇跡の親孝行

私たち家族は、次男に留守番を頼み、2018年11月4日、ねんりんピックとやま大会の俳句交流大会に参加することができた。感動の旅を終えて、しばらくたった11月25日、地元の高知新聞に次女の投稿記事が載った。「3日間の親

孝行」というタイトルであった。

驚いたのはタイトルではない。隣の紙面に、留守を守った次男の記事が載っていたことだ。14面に姉、15面に弟。姉は後日、「弟が残りて奇跡の親孝行」の句を作っている。

奇跡は大げさだが、三段抜きのイベント記事は、父の代理を果たした次男のガッツポーズが証明していた。私は感涙した。

2018年9月、富山から、ねんりんピック俳句交流大会の入選通知と表彰式への出欠の問い合わせがあった。妻は「行きたい」と言う。私は言下に「駄目だ」と言った。表彰式のある日は、私の出席を必要とするイベントが決まっていたためである。すると、次男が「そのイベントは、僕が責任を持つ」と言った。子どもたちは皆で母親の夢をかなえようとしていたのである。私たち夫婦は、かくして子どもたちに見守られながら富山へと旅立った。以下は次女の投稿の全文である。



表彰会場にて。次男に留守を託して家族が集結。(左から2人目)

3日間の親孝行

角原 雪 44歳 会社員 高知市

富山から、父に俳句の入賞通知が来たとき、母が「行きたい」と言い出した。それなら、私は一世一代の親孝行を計画、妹と大阪の兄に相談した。兄は「大阪から富山までは僕が運転する」と言った。当日、私は妹と運転を交代しながら大阪へ。大阪では、大型乗用車をレンタルして兄が待っていた。琵琶湖で昼食、一路、富山を目指した。日本海が一望できる旅館に宿泊。翌朝、立山連峰が望める雨晴海岸で、妹が感嘆の声をあげて一句を詠んだ。「雨晴らす 義経岩に 秋の虹」と。黒部の温泉街では、母が「錦秋の温泉郷に 下駄の音」、兄が「北陸路 三日で済ます 親孝

行」と詠んだ。ねんりんピックで表彰された父の俳句は「暮らうしろは 特に振り向かず」であった。私も一句詠む流れになったが、結局作れないまま夜遅く高知に帰っていた。

兄から、「運転お疲れ。疲れだろう。親孝行でできる機会を作ってくれたことに感謝します。」とメールが入った。

往復1400キロ。母の希望で、母のお母さんのお墓である長野県上田市まで足を伸ばすという2泊3日の強行軍の旅であった。疲れは翌日も残っていたけれど一句詠んだ。「旅終えて やれやれ南国 土佐の秋」



ソフトテニス 「ももたろう」チーム(選手代表)

なかむらいくよ

中村郁代さん

77歳

●参加歴：5回目

5度目の出場でかみしめた、テニスが続けられる喜び

岡山市ソフトテニス代表として、混合ダブルスに出場しました。ねんりんピック5回目の出場です。今回は代表者としての参加でした。

富山県総合運動公園陸上競技場での開会式は盛大でした。式典前のアトラクション、伝統芸能からきときと夢体操まで楽しみました。

開会式の入場行進では、各都道府県・政令指定都市の代表が選手団の紹介をしました。私も岡山市の紹介をしました。選手団の紹介者が待機しているとき、鈴木スポーツ庁長官の「おはようございます」のさわやかな挨拶の声に感動しました。

開会式の後、高岡市でソフトテニスとゲートボールの合同開始式が開催されました。特別表彰があり、高齢者賞をいただきました。77歳です。

ソフトテニスの会場は高岡スポーツコアというところ。岡山市の成績は11月4日の予選リーグは2位でした。5日の決勝リーグでは、2位グループ決勝トーナメントで1回戦敗退。2日間ともお天気がよく、汗ばむときもありました。

対戦相手との試合前の交流は楽しいひとときでした。ホテルから試合会場まで1km以内だったので、岡山市選手団は2日間徒歩で移動。みんな元気にがんばりました！

毎日のお昼のお弁当も楽しみでした。富山の美味しいお米と特産物を使った色とりどりのおかず、大変おいしくいただきました。

今回は5回目の出場で、1回目は広島、2回目は群馬、3回目は北海道、4回目は熊本でした。2回目の群馬大会では1位グループで優勝、ソフトテニス誌の表紙にも載りました。うれしい

体験をしております。

6日に帰岡しましたが、午前中は高岡で市内観光をしました。国宝瑞龍寺、三大大仏の高岡大仏等です。富山のおみやげもたくさん買いました。

ソフトテニスは80歳になってもできると思います、週3回以上の練習とOGクラブに所属して、年数回の試合に出場しています。また、岡山市ソフトテニス壮年会のお世話をしています。壮年の会ですが、皆さま例会の参加を楽しみにしております。

私生活では化粧品の代行店をしており、日々の規則正しい生活がテニスが続けられるもとになっていると思っています。



高岡大仏前で。試合後の観光も楽しい思い出。(右から2人目)



水泳 自由形 25m・50m 「広島市」チーム

こむら たかし
小村 堯さん 78歳 ●参加歴：7回目

水泳を楽しむ ―緊張感と交歓で身も心も新鮮に

ねんりんピックへの参加は、第13回大会（大阪）を皮切りに、とやま大会で7回目となる。特に今回の大会参加には、とても感慨深いものがあった。というのも、今から丁度60年前の1958年、高校3年生のとき、ここ富山の国体に参加したからである。以来、実に半世紀以上経っての、しかも同じ水泳競技を通しての富山再訪に、えもいわれぬ思いを深くした。もちろん、今では町並みに当時の面影など残っているはずもなく、とはいえ、ただ懐かしく記憶の一片を辿りながら、様変わりしたあちらこちらを散策しながら、しばし思い出に浸った。

私たちの競技・水泳は、立派な競技施設に加え、関係者のご尽力により競技運営もきわめてスムーズに行われ、参加者それぞれとても満足に競技ができたことに感謝している。さらに加えて、小生、ここ数年来、腰痛に悩まされており、特にスタート時、そしてターンの際、腰や首に痛みを感じていたが、今回は、富山県理学療法士会の方々による懇切な施術のサービスが行われ、大いに助けられたことに感謝しお礼を申し上げたい。

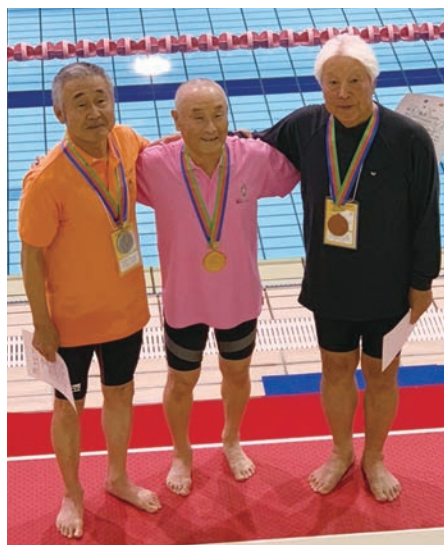
高校生以来、泳ぐことも少なく、50歳を過ぎた頃から体調のすぐれぬことが多くなり、受診したところ軽い狭心症とのこと。医師から運動を勧められ、これを契機に健康第一をモットーに再び泳ぎ始めた。以来、県内外のマスターズ競技会等への参加を、大いに楽しんでいる。

ご存知のごとく、マスターズの大会は同年代（5歳刻み）での競い合いなので張り合いがある。レースが近づくにつれて高まる緊張感がとても心地よい。年甲斐もなく尿意を催したり、

心臓はドキドキと。昨今、日常生活の中では余り味わうことのなくなったこうした昂ぶりが、軟化しつつある脳を刺激し、活性化に多少なりとも貢献してくれているのでは？ てなことを期待しながら、今日もせっせとプールに通っている。

そして、レース後の楽しみが、反省会と称した打ち上げ。互いの泳ぎっぷりを批評し合い、はたまた病院通いや年金、介護と尽きることはない他愛のない話題で酌み交わす杯の進むこと、進むこと…。

私たちの身体は好むと好まざるとに拘らず、加齢とともに確実に衰退の方向へと進んでいく。精神的、肉体的な衰えを痛切に感じる昨今、水泳競技会への参加が、こうした衰えの速度を和らげてくれているのかな、と思ったりもしながら水泳を楽しんでいる。



自由形（75～79歳の部）25m 1位、50m 3位。（右）